



飛騨っ子

令和5年10月23日発行 NO7
飛騨県事務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育推進専門職 : 水口 悟
TEL: 0577-33-1111 (内線 235)
E-mail: mizuguchi-satoru@pref.gifu.lg.jp



みんなで 家庭教育！



◇ 子どもの心によりそって 講演会型 自立心

○期日:10月12日(木) ○会場:飛騨市立古川中学校 ○主催:古川中学校 PTA 子育て委員会
○共催:飛騨市 PTA 連合会子育て委員会 ○講師:ぎふ、CAP/親業インストラクター

研修後、保護者の方が言われました。「子育ての一番の後悔は、『あんなつまらないことで怒らなければよかった』と思うことの数々です。」と。わが子を怒ってしまった自分を何度後悔したことか。それでも怒ったままにできなかった自分もいたはずです。



<子どもの持っている力を引き出そう！>

・子育て支援 から 子育て支援へ！

‘子育て支援’とは、子どもたちが持っている力を引き出してあげるためのアプローチのことです。大人の子どもは弱いもので、守ってあげなくちゃいけないという意識が強すぎると、ついつい先回りした言動をしてしまい、子どもは指示待ち状態に陥ってしまいます。わが子をどうひとり立ちさせられるか。そのために、親としてどう関わっていくとよいのか。大人は、すぐに答えを出したがるけれども、子どもの持っている力を引き出しながら聞くことが大切であることを学びました。

・わが子の目を 見て！

演習の中で、繰り返し言われたのが「相手の目を見て」ということでした。「そう言えば、わが子と目線を合わせることがないかも・・・」と参加者がぼつり。お互いに慌ただしすぎて目を合わせる時間さえないのかも知れません。‘同じ目線に立ち、目を見て話す’ことを意識することで、思春期のわが子に伝わるメッセージがあるように思います。



・あなたメッセージ から わたしメッセージへ！

例えば、あなたを主語にすると、ついつい「片づけなさい!」(あなたは～しなさい)となってしまいます。わたしを主語にすると、「テーブルの上におもちゃを広げていると、夕食の準備ができなくて、わたしは困るよ。」(私は～なんだよ)と、私の気持ちを伝えることができます。そうすることで、わが子はなぜそうしなくちゃいけないのかを理解し行動につなぐことができます。そして、さらに、テーブルの上のおもちゃを片付けた後に「ありがとう」と私の気持ちを伝えることができます。わたしメッセージを伝える方法を身に付けることが大切です。

日常生活の中で‘子どもたちが持っている力を引き出すアプローチの仕方’を是非とも活用してみましょう。親として、自分の力を引き出す訓練の1つでもあります。まわりの大人があたたかいメッセージのやりとりを心がけることで、子どもたちの安心は広がり自立心を育てることにつながります。

◇ 「SDGs de 地方創生ゲーム」 in 北稜中学校 学校行事参加型



○期日：令和5年9月28日（金） ○会場：高山市立北稜中学校
○対象：中学校3年生の親子 18組
○講師：株式会社 Edo SDGs de 地方創生公認ファシリテーター
＊生涯学習課「家庭教育充実事業 学ぶPTA」を活用



「親子で12年後の自分たちのまちを創る!」をテーマに、中学3年生の親子がカードゲームを通して学習をしました。地方創生の指標は「人口」「経済」「環境」「暮らし」の4つです。親子各ペアが、まちの1つのプレイヤー（例えば、市役所職員、町工場の経営者、観光事業者等々）として、まちを良くするためには具体的にどう行動していくとよいのか、まちにはどんな資源（人・もの・こと・お金）があるのかを考え、他のプレイヤーと交流しながら、4つの指標が向上するように活動を進めます。



授業が進むにつれ、親子の親同士の生徒同士のコミュニケーションがどんどん広がり深まります。持続可能となるわがまちを創生するために、親子が考え、行動し、交渉し、知恵を出し合い・・・、北稜中学校3年生の親子の総力戦が続きます。講師の方が「この学習を親子で開催したのはこれが初めてです。」と、話されました。親子がお互いのものの見方・感じ方・考え方を肌身で学び合えることは、とてもすてきなことです。しかも、思春期真っ只中のわが子とです。なかなかこのような時間はとれません。学校行事参加型の家庭教育学級として効果的な取組です。学校において親子一緒に学んだ SDGs の内容が、家庭における親子の対話

につながります。地域とともにある学校づくりや地域学校協働活動の視点は、このようなところにもあるような気がします。‘このまちの存在をどう持続可能にするか’・・・、体育館というまちのあちこちで対話が途切れることなく続きました。親子の対話力がすばらしい。この学習は、キャリア教育やアントレプレナーシップ教育につながります。

<保護者の感想>

最初は何をやったらいいのかわからず、親子で戸惑ってしまいましたが、周りの人たちの動きを見たり助言をもらったりしながら、何とか進めることができました。それこそ対話ができないと成り立たないゲームで、親としても大変勉強になりました。わが子と一緒に何かを達成するという機会もめったにないので、とても良い経験になり楽しませていただきました。



<生徒の感想>

初めてこのゲームをみんなでやってみて、設定がリアルで頭も使うから難しかったけど、すごく楽しかったです！私の目標は、人口メーターを最終的に8以上にすることだったけど、結果は3で全然達成できませんでした。人口を増やせそうなプロジェクトがあっても他のメーターが足りなかったり、お金や資源が足りなかったりして難しかったです。また、一人一人の目標も違っていたし、誰が何を目指しているかも全く分かっていなかったのも、「もっと、対話ができたら・・・!」と対話の重要性を感じました。今回の学習を活かせば、もっとまちの未来は変わるので、またチャレンジしたいと思いました！